

この人に インタビュー

INTERVIEW

『多治見自警団』 団長
(株)北政商店 代表取締役

加藤 政兵衛 氏

インタビュー-

広報委員長 (株)4×4エンジニアリングサービス 松本 信廣

『多治見自警団』 班長
(株)藤本組 代表取締役

松島 祥久 氏

多治見自警団

〒507-0028 多治見市弁天町4-6
(株)北政商店内

連絡先

〒507-0023 多治見市小田町5-1
(株)藤本組内 松島祥久
TEL 0572-22-3165 FAX 0572-24-3594



かとう まさべえ

加藤 政兵衛 氏 プロフィール

生年月日 昭和18年11月2日

血液型 O型

まつしま よしひさ

松島 祥久 氏 プロフィール

生年月日 昭和38年3月29日

血液型 A型

松本：明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

加藤・松島：おめでとうございます。こちらこそどうぞよろしく。

松本：法人会が地域社会貢献活動を推進していることは、お二方とも法人会の役員さんですので良くご存知ですね。多治見支部では地域のイベントに参画して税金クイズなど税の啓蒙をやっています。可児支部ではクリーンキャンペーンとして河川の清掃や不法投棄の撲滅キャンペーンを、春と秋の2回実施してもう10年程になりますね。我々企業家は社会にお世話になっているの

で、地域の方々に何かの形でお返しをしようという精神ですよ。

そこで、加藤さんや松島さんが地域の犯罪防止のためにグループで活動してみえることを知り、是非法人会の皆さんにご紹介したいと思います。まず名称は？

加藤：『多治見自警団』として地域の安全活動をしております。

皆の意識が固まり平成17年9月自警団設立

松本：この人にインタビューは、今まで人物紹介をさせていたいただいておりますが、今回は地域の安全安心を守る



たね。犯罪のネットワークに対して防犯のネットワークも構築しなければなりませんね。自警団の団員さん、企業の参加者は社員さんもメンバーなのですか？

松島：そうです。社員さんがメンバーで現在は89社362名、そして個人の方や商店の方もみえます。町内の方とも連携してやってゆきたいと思います。

松本：多治見市のすみずみまで地域のいろいろな方々が参加してみえるのですね。

加藤：企業のトップの方も回られますよ。

お手伝いをしようという『多治見自警団』についてお伺いさせて下さい。
まず、お二人の役割は？

松島：加藤さんが団長で、私が班長の代表として今日は参りました。

松本：いつ頃結成されましたか？

加藤：平成17年9月17日に発足式を行い、7班62社280名の団員の登録をいただき、翌々日の9月19日から市内7ルートの見回りを開始しました。

松本：じゃ、まだ1年と少々ですね。多治見で拳銃強奪事件がありましたよね、あれはいつ頃でしたか？

松島：確か、17年の4月でした。

松本：銃関係というと暴力団などの認識でしたが、身近にこのような事件が発生して松島さんは一住民としてどう思われましたか。

松島：多治見でこんな事件が起きるなんて考えられないことでした。その前にもボーガン事件とかがあって平成16年の後半から17年の初めにかけて、何とかしなくてはという気持ちがありました。

加藤：その頃ちょうど、ある程度皆の意思を固めつつあったのです。班長会議を重ねて毎回いろいろ相談しこのままでは大変なことになると、自警団設立に向けての意思が固まりました。それにその頃、企業の事務所荒しに片っ端からやられておりました。

松本：あの拳銃事件の犯人は外国人でしたね。範囲が広域になり拳銃も犯人もそれぞれ異なる県で見つかりまし

松島：9班が11コースを三人一組で、午後9時から10時まで一日おきに回っております。

加藤：メンバーの人数が増えれば、毎日でもパトロールできるのです。

松島：だいたい4km程度のコースで、一人の方が一ヶ月に1回の順番でっております。

加藤：歩いて回るんですよ。

松本：歩くことはいいことですよね。身体にもいいし地域のことが良く分かりますね。我々は日頃は車での移動ですから。

加藤：スタート時点では、取りあえず参加企業を点にしてコースを作ったわけです。

松島：大分定着しましたので団員証のステッカーを作りまして、事業所の窓口に貼っていただき意識を持っていただくようにと車にも貼って、防犯の啓蒙にもなりますのでお願いしております。

松本：パトロールの時は制服があるのですか？

松島：腕章をつけ一人は誘導棒を持って回ります。暗がりでは危険ですので蛍光安全チョッキを希望者には着用していただいております。

松本：初めは格好が悪いと思うかもしれないけど、慣れれば着用した方が安全ですよ。さて、これまでの活動の中から、市民の皆さんの反応はどうか？

松島：最初は不審者かと間違われそうでしたが、だ

んだん「ご苦労さん」など声を掛けられるようになりました。

加藤：若い女の子が携帯電話を持って夜遅くまでコンビニにたむろしているとか、酔っ払った人がいるとかで、その人達に軽く声を掛けて注意を促していました。「ご苦労さん」の反応は高齢者の方から多くあり、最近は若い人達からも声を掛けてくれるようになりました。

行政・地域とタイアップした街づくり

松島：防犯の啓蒙と地域を良くする為に、昨年暮れ自警団から多治見市長宛に危険な場所・暗い場所²⁴の改善の請願書を出しました。4月に回答がありまして、言いつ放しでもいけないので市から側溝蓋の材料を支給してもらい労力をこちらから提供して、危険な側溝に蓋をする活動を致しました。この他歩道が傷んでいるなど、要望6件が具体化しました。後の18件については区長さんにも連絡させていただき班長が説明に伺ったりしましたところ、我々に賛同して地域から防犯灯をつけて欲しいなどの要望があり、拮抗してやれるようになりました。

松本：行政と地域ともタイアップして街づくりを一緒にやってみるんですね。警察とも意見交換されますか？

松島：東濃西部地区防犯協会の会議に出席させていただきました。中津川の事件がありましたので、折角歩いて回っているのが多治見市の廃屋・空家の調査を実施して、結果を今年春に県・市・警察に報告しました。

松本：中津川の事件も地域力の低下が原因の一つでしょうね。あの廃屋はパチンコ屋でしたが、現在は取り壊されましたね。

松島：東濃セーフティーサポートという防犯情報が発行されていますが、それを市に働きかけて回覧板で全戸に回るようにしていただきました。また先月から団員には班長からFAXをして周知することにしました。

松本：これだけの大きな組織がすみずみまで機能していることに感心し、正直言ってびっくりしました。短期間でこれだけ浸透したことはすばらしいと思います。

加藤：それは班長さんたちが毎月会議を開いてみえるからです。11コースのパトロールが終わると必ず

班長へ報告書を提出するのです。それを元に問題点を持ち寄って班長会議でどうしようこうしようと相談するのです。

松本：正に民主主義の基本ですね。自警団の趣旨を書かれた文章のなかに、ジョン・エフ・ケネディーの言葉を引用されていますね、ご紹介しましょう。

自治体が、警察が何をしてくれるかを問うなかれ、自治体に、地域に対して何が出来るかを問え
事業所を、従業員を、共に守ろう。

(J.F.ケネディー語録より引用)

加藤：団員さんから意見が出て、自分達で行動した訳です。言ってるだけではだめですよ。人数が増えれば点と点が線になる。自警団だけではなく町内は町内で、PTAはPTAで、皆がやれることをやっていけば、隙間がだんだんなくなるんです。

松本：そのとおりですね。

FM放送で防災・防犯の啓蒙

加藤：たまたまFM放送で防災や防犯のニュースを流しておりましたので、特別に夕方の時間帯に番組を作って班長さんや警察の方、市の関係者に出演していただき、意見や取り組みを話してもらっております。

松本：特に防災と通信は切っても切れないですよ。



加藤：東京のある作曲家が「防犯パトロール」という曲を作曲され、CDを作りました。FM放送の全国的な会議がありその席上で使用許可をいただきました。簡単で分かりやすく軽快なリズムでびったりな歌ですので、その番組の最後にこの曲を流すようにしました。市の防災無線でも夕方の時刻を決めてこの曲を流していただきたいと交渉中です。防犯への抑止力にもなりますのでね。

松本：それは良いアイデアですね。火の用心・戸締りを含めての啓蒙ですね。犯罪者が近寄りたくなる。日本の国は安全と水はタダだとずっと言われてきましたが、ここ10年程前からいろんな犯罪が起きてきましたね。地域力についてどう考えられますか。

加藤：基本は自分が動く、行動する、汗を流すということでしょうね。特に班長さん達は大変なんですよ、よくやってもらっています。企業のトップの理解がなければやれない。いろんな費用は全て受益者負担ですから。時間外の活動ですので、保険とかいろいろな問題が出ましたよ。しかし何かあった時の対応は各社で措置してもらおうことにしております。

松島：東濃西部地域防犯協会の会議の席上でも、県内には様々なボランティア団体がありその数を集めると大変な大人数になる、そこでスケールメリットとして県としてボランティア対応の保険制度を作っていただきたいと提案しております。

松本：犠牲的精神でやっているのですから、保険は行政でやってくれると皆さん参加しやすいですね。

松島：その辺りのことが一番問題になって来ますね。

加藤：よく検討しますとの回答でまだこれからです。それと社員とトップの方が一緒に回られると、日頃できないコミュニケーションができる。なおかつ1時間ちょっと歩くと健康にもとても良いのです。そういう方がたくさんみえますよ。

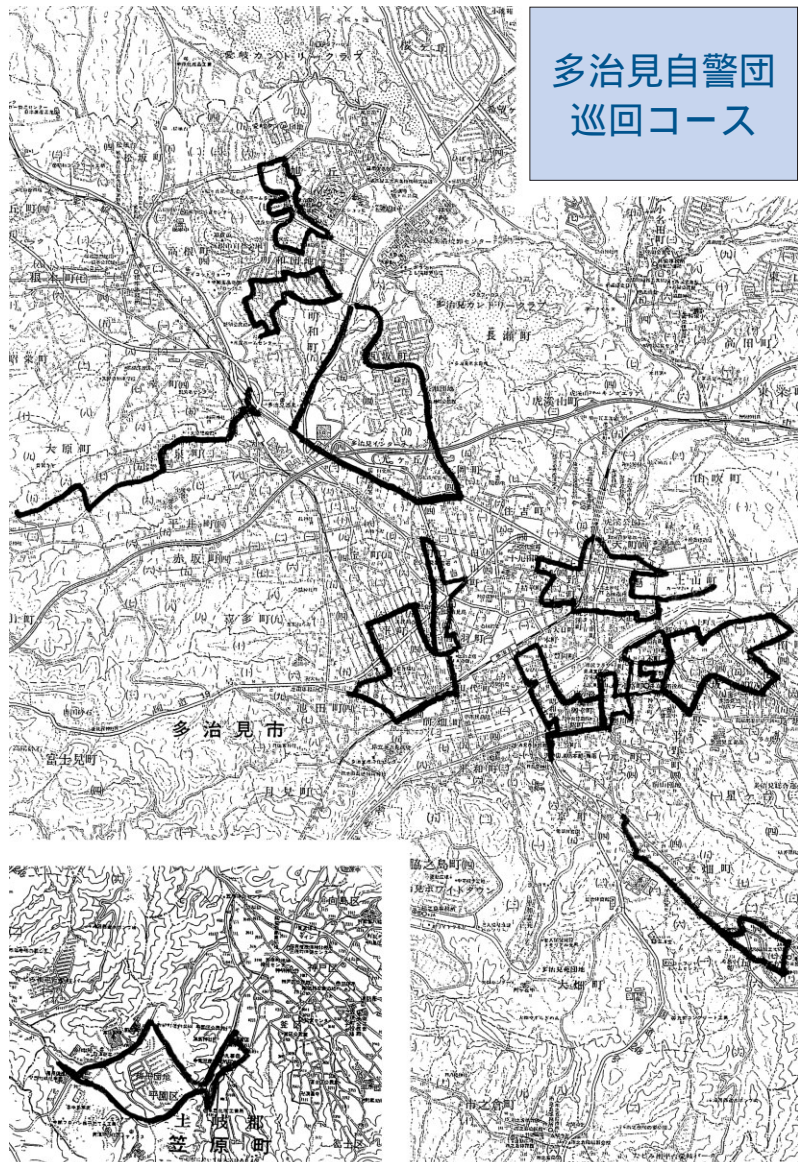
松島：皆さん仕方なく回っていてくれるのかと心配したのですが、交流会で話しますと社員のお一人お一人が結構積極的に活動いただいております。

加藤：たくさんの人を出している企業さんには余分に負担をかけています。もっとメンバーが増えて倍になったら毎日パトロール出来ますし、コースも短く出来ますので是非多くの企業さんに参加いただくとありがたいのです。

松島：一気に増えてませんが、徐々に増えてきております。

松本：一緒にやろうという人が漢方薬みたいにじわじわ増えたのですね。

加藤：ただ防災防犯だけではなく、地域で目に付く物、例えば放置自転車とか放置家具とかもわかります。だいたい一つ捨ててあると他の人もそれを真似て放置される物が増えるんです。



多治見自警団
巡回コース

松島：ある企業の駐車場に不審な車が止まっていたよとか、放置自転車があるとか、草が茂って歩きにくいとかの情報も集められます。

松本：その解決を自分達でやれば、警察は本来の仕事が出来ますね。

加藤：しかし班長さんから徹底してもらっていますが、何かあった時は一切自分で手を出さないようにとっております。皆さん携帯電話を持っていますから、警察へ通報して対応してもらおうよう、また連絡網で情報を流すようお願いしております。

松島：今まで事件に直面してはいないのですが、以前ながせ商店街で強盗未遂事件があった翌日、当番で回らなきゃならないけどちょっと怖い。じゃあその日の当番全員で特別に事件のあった商店街を回ることにして30名ほどで回りました。

加藤：日本は法治国家で恐らく警察は相当きめ細かな情報収集をやってみえると思うんですよ、表には出さないけれど。一人の警察官が対応する人数はものすごく増えていて大変だそうです。

松本：自警団の活動は警察のお手伝いになりますね。署長も喜んでみえるでしょう。地域に密着してますます頑張してほしいですね。

法人会の皆様も是非仲間入りを、そして共に守ろう

松島：法人会の皆さんにも是非仲間になって欲しいと思っております。土岐市・瑞浪市・可児市や御嵩町でもこのような活動をしていただけるなら、事務局を通して下さってもよいご連絡下されば伺って詳しく説明させていただきますので、よろしく願います。

松本：県や警察、防犯協会からも認められ、表彰を受けてみえますね。

『多治見自警団』の活動の影響が近隣地域に波及し、さらには岐阜県下にも広がるとよろしいですね。

加藤：良い街づくりはその時代に合う形に修正していけばいいと思います。人・物・金は要りますが、放って置いたらゼロですからね。一歩でも二歩でも進めばそれだけ街が良くなる訳です。1人より2人、10人より100人、100人より1,000人の人が動けばもっと良くなる。そういう運動が必要だと思います。

松島：警察や行政まかせではなく自分で自分を守る、また一人一人が自分に責任を負うということが大切だと思います。

松本：自分の安全は人任せではいけないということですね。企業経営も同じですよ。世の中が悪いとか国が悪いとか政治がどうだとか言う前に、経営者は自分でしっかりとやらねばなりません。安全も同じことですね。本日はありがとうございました。

